14 説明文

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

天気予報の中でも、時刻の表現はとくに厳密に規定されています。たとえば、「今夜は曇り時々雨」というとき、いったいどれくらいの時間、雨が降れば「時々」なのかも決められているのです。

A、予報期間があります。今夜の天気予報なら日没から夜明けまでですが、「時々」というのはその時間のうちの半分未満です。つまり「今夜」が夕方六時から朝六時までなら六時間以下です。

B「時々」というのは断続的な動きのことですから、雨の降っていない時間帯もなければいけません。これにも決まりがあって、「現象に空き時間がおよそ一時間」あれば、「断続」になります。それ以下の時間なら「連続」です

少しややこしいので、具体的な例をあげてみましょう。

夜中に四時間ほど雨が降ったり止んだりしたとします。②これは時間の長さでは「今夜」の半分以下ですから「時々」にあてはまります。止んでる時間が一時間で、降っている時間が三〇分の繰り返しなら、これは十分に「時々雨」の資格が満たされます。

もし、雨が止んでいる時間が三〇分で、降っている時間が一時間以上なら、ただの雨です。よってこれは、「今夜は曇りで、遅くなって雨」という予報になります。

「曇り時々雨」と「雨時々曇り」の違いは、予報時間帯の半分以上が曇りか雨かの違いです。そして、それぞれの天気に一時間以上の空き時間ができる場合に「時々」の表示が使われるということです。

問1 □ A・Bにあてはまることばの組み合わせとしてよいものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア A たとえば　B つまり
イ A まず　B つぎに
ウ A さて　B ただし
エ A もちろん　B それに

〔　　〕

問2 ——線①「空き時間」とありますが、現象が「雨」の場合、空き時間とはどんな時間ですか。

〔　　〕

問3 ——線②「これ」の指している内容を文中から五字以内で書きぬきなさい。

問4 ——線③「この言葉には泣かされることが多い」とありますが、それはなぜですか。よいものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア 場所によって本当に違っているのかどうかがわからないから。

●類義語

では「一時雨」というのはどうでしょう。

これも実は、使い方が決められています。「一時」を使う場合は、その時間帯や地域をできるだけ具体的に指定するように指示されています。「晴れ後曇り、夕方一時雨」といった具合です。つまり「時々」という表現より、もう少し、確率の高い予報ということになるのです。

ついでにもうひとつ、「所により」の説明。実際、③この言葉には泣かされることが多いと思います。「所により」って、いったいどこのことなんだと文句をいいたくなります。

しかし、④この言葉ばかりは曖昧なままで仕方ないようです。⑤気象庁の用語規定では、「所により」は「予報対象域の五〇パーセント未満の不特定域」を指すことになっています。乱暴ないい方をすれば、半分以上の確率で「所により」の場所からは外れていることになります。しかし、雲の中でもとくに雨を降らせる積雲の発生は、地域の条件によって微妙に分かれますから、いまのところは「所により」であきらめるしかないようです。

（竹内均『川と日本人　田舎をめぐる謎』）

注　断続的＝途切れたり続いたりする様子。

イ 自分が天気を気にしているところがふくまれるのかどうかがわからないから。
ウ どれくらいの広さの地域がふくまれているのかがわからないから。
エ 指定している場所がうつりかわっていくのかどうかがわからないから。

〔　　〕

問5 ——線④・⑤は、ア事実、イ筆者の意見、のどちらですか。それぞれ記号で答えなさい。

④〔　　〕　⑤〔　　〕

問6 夕方六時から朝六時までの天気が次の(1)・(2)のとき、予報はあとのどれになりますか。それぞれ記号で答えなさい。

(1) 三時間雨が降って四〇分止み、三時間降って二〇分止み、五時間降る。
(2) 三時間雨が降って五時間止み、一時間降って二時間止み、一時間降る。

ア 雨　イ 雨時々曇り
ウ 曇り　エ 曇り時々雨

(1)〔　　〕(2)〔　　〕

問7 この文章につける題名としてよいものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア 時間とことば
イ 天気予報の使い方
ウ 天気の決まり
エ 天気予報の表現

〔　　〕

2

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

I　そもそも動物は、動くから動物なのであり、植物は動かないことになっている。ところが、食虫植物の中にはその動かないはずの植物のくせに、注1トラップのようになった葉を、ぱっと閉じて虫を捕らえたりするものがいるから①無気味なのである。巨大な植物が背後からそーっと忍び寄ってきて、気がつくとかんじがらめにされてしまう。などというのは考えても［　　］するが、さすがにそんな植物は、今のところ発見されていない。ともあれ、じっと動かず大地に立っている植物に、あたかも意志が秘められていて、静かに生き物を狙っているようなところに、食虫植物の悪夢的、宇宙人的な怖さがある。

2　ウツボカズラの場合も、動きこそしないけれど、葉が変形発達してできた②靱型の捕虫袋に、虫を誘う液体がたたえられていて、無言のまま、じっと待ちかまえている。そうしてその捕虫袋にも、凝結した血のシミのような模様が点々とついている。

3　現地人のガイドが、ここです、と案内してくれたマダガスカルウツボカズラ、つまりネペンテス・マダガスカリエンシスの自生地は、高原状の、いかにも地味の痩せたところで、あそこにも、ここにもそのネペンテスの大きな株が生えている。一種独特の雰囲気のある場所である。ちょっとした注3ロスト・ワールドの感じといえばいいか。

4　捕虫袋の中にたくわえられている液には、虫を誘引する作用があるらしいけれど、③それはかなり強い酸性で、つまりは消化液である。中に落ちた虫などの蛋白質を消化してしまう。人間でいえば、胃袋が身体の外側にぶら下がっているようなものであろう。

5　近づいて中をのぞいてみると、大きな袋には④ずいぶんいろいろな昆虫が入っている。虫どもは、袋の中の液の匂いにおびき寄せられて、袋に止まり、つるりと足をすべらせる。するともう、二度と這いあがれない仕組みである。ためしに溺れている連中をピンセットで取り出してみる。マダラチョウの一種、クサカゲロウ、ハエ、アリなどに交じって大きなキリギリスの仲間が出てきたのには驚いた。この虫などは、強い肢と注4口器を持っているから、中に入っても金角、銀角の瓢箪の中の孫悟空のように、大暴れすれば、ネペンテスの胃袋ぐらい破って出てきてしまいそうなものなのに、まったく⑤手もなく死んでいる。なにか仕掛けがあるに違いない。

6　蝶は翅が大きいから中でつかえて羽ばたくことができないけれど、ハエのように飛ぶことのたくみなものまで、脱出できずに死んで溶けかかっている。

（奥本大三郎『虫屋の落とし文』）

注1　トラップ＝わな。
注2　凝結＝こりかたまること。
注3　ロスト・ワールド＝ここでは、恐竜のいたころの世界のこと。
注4　口器＝昆虫などの動物の口部にある、エサを捕らえ、かみくだくための器官の総称。

問1　――線①「無気味」とありますが、食虫植物の無気味さはどんなところにありますか。次の［　］にあてはまることばを文中からそれぞれ書きぬきなさい。

［　　］はずの植物なのに、［　　］を持っているかのように思えるところ。

問2　［　］にあてはまることばとしてよいものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア　ぞっと　　イ　すかっと
ウ　ぱっと　　エ　むかっと

（　　）

問3　――線②「靱型の捕虫袋に、虫を誘う液体がたたえられていて」とありますが、このような捕虫袋のことをたとえを用いて表した二十二字のことばを文中から書きぬきなさい。

問4　――線③「それ」の指していることばを文中から二十字以内で書きぬきなさい。

問5　――線④「ずいぶんいろいろな昆虫が入っている」とありますが、具体的にどんな昆虫が入っていましたか。文中から五つ書きぬきなさい。

（　　）
（　　）
（　　）
（　　）
（　　）

問6　――線⑤「手もなく」の意味としてよいものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア　思いもよらず　　イ　静かに
ウ　何もできないで　　エ　ひどいすがたで

（　　）

問7　各段落の小見出しとしてよいものを次のうちから選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア　虫を捕らえる仕組み
イ　ウツボカズラの自生地
ウ　ウツボカズラの捕虫袋
エ　食虫植物の怖さ
オ　捕虫袋の中の液
カ　脱出できない虫たち

［1］（　　）　［2］（　　）　［3］（　　）
［4］（　　）　［5］（　　）　［6］（　　）

3 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

一般にモヤシという名前で売られているものは、リョクトウ（緑豆）やダイズ（大豆）などの豆類を発芽させたモヤシである。中でも多く食べられているのが、リョクトウのモヤシだろう。

リョクトウは、日本ではなじみのない野菜だが、中国では春雨の原料になる豆である。

色白で、ひ弱な子どもは「もやしっ子」と揶揄される。[注1]

モヤシはけっして弱々しいわけではない。

モヤシを見ると、先端は双葉を広げることなく、長く茎を伸ばしている。[1]モヤシは、光を与えずに暗いところで育てる。そのため、モヤシは土の中を伸びていると勘違いして、葉を広げずに茎を伸ばしていくのである。

また、モヤシは頭を下げるように、双葉の部分を垂らした形をしている。この形には、意味がある。じつは、これこそが、土の中の芽生えの姿なのである。

地上で伸びるように、まっすぐに伸びようとすれば、大切な芽の先が土や石で傷ついてしまう。そのため、大切な芽の先を守るように[注3]湾曲させた茎で押し上げるように成長していくのである。そして、芽生えは、背中の部分に当たる茎の部分で、土や小石を押しのけながら伸びていく。

人間でも、おしくらまんじゅうをするときには、丸めた背中で押し合う。また、満員電車に乗るときには、頭から突っ込むようなことはせずに、丸めた背中から人と人の間へと割り込んでいく。[2]モヤシの形は、まさにこれと同じなのだ。

[a]モヤシは傷みやすい野菜として知られているが、それは、モヤシが成長し続けているからである。根っこを切られ、袋に詰められて、冷蔵庫に入れられても、モヤシは光を求めて成長を続ける。モヤシの生きるパワーはものすごいのである。

[注4]三国志時代の天才軍師として知られる諸葛亮孔明は、リョクトウのモヤシを行軍の食料としていたという。

モヤシは、栄養が豊富である。

豆類は、発芽のために豊富なたんぱく質などの栄養分を体内に蓄えている。それなのに、どうして手間をかけて、わざわざモヤシを作るのだろうか。

じつは、モヤシには豆類にない栄養分が、たくさん蓄えられている。

豆類は、種子から芽生えていく過程で蓄えてきたたんぱく質や、でんぷん、脂質などの栄養分を分解して、植物として生きていくためのさまざまな成分を作り出す。そのため、モヤシにはビタミン類やアミノ酸など、豆には含まれなかった栄養分が作り出されるのである。まさに、モヤシは生きていくための栄養分とパワーに満ちあふれているのである。

[b]もはや、誰がもやしっ子扱いできるだろうか。

（稲垣栄洋『スイカのタネはなぜ散らばっているのか』）

注1　揶揄＝からかうこと。
注2　双葉＝発芽して最初に出る葉。
注3　湾曲＝弓なりに曲がること。
注4　三国志＝中国の歴史を題材にした小説。

問1 □にあてはまることばとしてよいものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア　そして　イ　つまり
ウ　しかし　エ　たとえば

（　　）

問2 ――線①「モヤシは、光を与えずに暗いところで育てる」とありますが、このような環境にすることで、モヤシはどのように育っていきますか。文中から三十字で書きぬきなさい。

問3 ――線②「モヤシの形は、まさにこれと同じ」について、次の問いに答えなさい。

(1)「モヤシの形」とは、どんな形ですか。文中から二十字で書きぬきなさい。

(2)「これと同じ」とは、つまりどういうことを言っているのですか。よいものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア　モヤシは、土の中でも地上でもつねに成長を続ける、ものすごい生きるパワーをもっているということ。
イ　モヤシは、土や小石を押しのけるために背中の部分に当たる茎の部分はまっすぐな形になっているということ。
ウ　モヤシは、人間が満員電車に乗るときと同じように押し合いながら伸びていくための形をしているということ。
エ　モヤシは、伸びていく過程で大切な芽の先が土などで傷つかないように守るための形になっているということ。

（　　）

問4 〰〰線a・bは、ア事実、イ筆者の意見、のどちらですか。それぞれ記号で答えなさい。

a（　　）　b（　　）

問5 筆者がこの文章でのべたかったのはどんなことですか。次の（　）a・bにあてはまることばを、aは二十五字、bは二十一字で文中からさがし、それぞれ初めと終わりの五字を書きぬきなさい。

豆類は、種子から芽生えていく過程で（a）ので、モヤシには（b）ということ。

a　〰　〰
b　〰　〰

●類義語

例題　次の熟語の類義語を下から選び、記号で答えなさい。

勝負（ア　勝利　イ　勝敗　ウ　決勝）

（　　）

解き方

・意味が、たがいににていることばを**類義語**といいます。

・熟語の類義語は、熟語を組み立てる漢字の意味に注目して、ことばの意味をつかみましょう。

かつ　まける　かつ　やぶれる
勝　負＝**勝　敗**

「負」と「敗」が意味のにた字であることに注目します。

答え　イ

類義語は、意味が完全に同じことばというわけではなく、いつも同じ使い方をするとはかぎらない。

例「目標」と「目的」
- 最初の目標を変える。（○）
- 最初の目的を変える。（○）

- 夏休みの目標は早起きだ。（○）
- 夏休みの目的は早起きだ。（×）

例「着く」と「とどく」
- 荷物が家に着く。（○）
- 荷物が家にとどく。（○）

- 兄が東京に着く。（○）
- 兄が東京にとどく。（×）

1　次の熟語の類義語を下から選び、記号で答えなさい。

(1) 欠点（ア 短気　イ 欠席　ウ 短所）　（　　）
(2) 起用（ア 登用　イ 起点　ウ 器用）　（　　）
(3) 進歩（ア 歩行　イ 行進　ウ 上達）　（　　）
(4) 意外（ア 意見　イ 外側　ウ 案外）　（　　）
(5) 経験（ア 実験　イ 体験　ウ 径路）　（　　）

2　次の熟語の類義語をあとから選び、記号で答えなさい。

(1) 屋外（　　）　(2) 平等（　　）
(3) 興味（　　）　(4) 見解（　　）
(5) 永遠（　　）　(6) 改良（　　）
(7) 熱意（　　）　(8) 同意（　　）

ア 意見　イ 公平　ウ 賛成　エ 戸外
オ 関心　カ 改善　キ 永久　ク 情熱

3　次の□に漢字一字を入れて、類義語を作りなさい。

(1) 海外＝外□　(2) 準備＝□意
(3) 本人＝□人　(4) 衣類＝衣□
(5) 心配＝不□　(6) 日中＝□間
(7) 長所＝□点　(8) 身内＝□類

4　次の熟語の類義語をあとから選び、漢字に直して書きなさい。

(1) 手段＝（　　）　(2) 大事＝（　　）
(3) 願望＝（　　）　(4) 決心＝（　　）
(5) 応答＝（　　）　(6) 大量＝（　　）

きぼう・たりょう・じゅうよう
へんじ・ほうほう・けつい

5　次の各組の――線部のことばは類義語です。それぞれの文に合うように□にあてはまる漢字を書きなさい。

(1)
おくれた理□を説明する。
電車がこわれた□因を調べる。

(2)
試験の結□を知る。
物語の結□を話す。

(3)
集合時間を□示する。
急いで歩くように命□する。

理　因　結　結　示　命

漢字の学習14

――線部の漢字は読みをひらがなで書き、かたかなは漢字に直しなさい。

(1) 井戸から水をくむ。　(2) 埼玉県に住む。
(3) 行列に連なる。　(4) 海水浴に行く。
(5) 飛行機に乗る。　(6) 鏡台の前にすわる。
(7) 神社に参る。　(8) 友人の話に加わる。
(9) なべに水を満たす。　(10) 着物の帯をしめる。
(11) 受賞をシュクフクする。　(12) 出身はトチギ県だ。
(13) テンネン記念物。　(14) 例をアげる。
(15) ネンマツに友人と会う。　(16) 決勝でタタカう。
(17) ユビワをはめる。　(18) この薬はムガイだ。
(19) 行動をハンセイする。　(20) スープに味をツける。

15 意見文

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

知識をただ覚えておくだけでは、注1教養・知性にはなりません。頭のどこかに①[]借りしているだけです。それをその人なりに血肉化していくには、「考える」という作業が不可欠です。

「考える」というのは、新しい意味、あるいは因果関係を見つけていくことです。一見するとつながりがないように思えることも、それらを別の文脈や注4論理の世界に持ち出して丁寧に消化していくと、少しずつつながっていることが見えてくるから不思議です。

しばしば「注5真理はひとつ」だと言われます。エネルギーはさまざまなかたちで現象を生み出しているけれども、これはすべてある大きな法則に基づいている。私たちの心の中で起こっていることも、外で起こっていることも、すべてつながっているかもしれないということです。

お父さんとお母さんがケンカをしているのも、学校の授業が面白くないのも、試合でいい成績があげられないのも、大好きなあの子が僕のほうを見てくれないのも、もしかしたらすべてつながっているのかもしれない。そういうことが見えてきたら、ちょっと面白いと思いませんか？

bそういうことが少しでも感じられると、ものの見方も違ったものになるでしょう。これこそが、教養を身につけるということのもうひとつの意味で、それはまた、学ぶことの意味でもあるわけです。

②登山で、道なき道を登っていったら、自分のいる場所がわからなくなります。A、あるところまで来ると、急に見晴らしがいいところに出る。そうすると、「うわぁ、こんなきれいなところがあったのか」と感動すると同時に、自分が今いるところが、別のかたちで見えてくることがあります。

上に行けば行くほど、周りの山や空、遠くにある滝などが見えてきます。

学ぶというのは、山を③少しずつ、少しずつ登っているようなものです。登るにつれて、見える世界が少しずつ大きくなり、広がっていきます。B、自分が今いる場所が、徐々にわかってきます。上まで行けばそういうことがわかるけれども、途中で周りを見ても木や草しか見えなくて、自分がどこにいるかわからないものです。これは、皆さんが、学んでいる状況と似ています。

④学ぶにつれて、いろいろなことがつながってきて、ものごとを注6俯瞰して見られるようになると、自分の立ち位置、さらには自分が生きている世界が見えてきます。学ぶということは、山を登ることと同じです。

いろいろな知識がつながってくると、世の中がよく見えてきます。それまで自分が経験的に知っていたことと、新しく教えてもらったことがつながって、もうひとつ高いレベルで意味を理解できるようになるからです。

（汐見稔幸『人生を豊かにする学び方』）

注1 教養＝幅広い知識からえられる、心の豊かさや理解力。
注2 血肉化＝自分のものとして取りこむこと。
注3 因果関係＝二つ以上のものの間にある原因と結果の関係。
注4 論理＝考え方のすじみち。
注5 真理＝正しいものごとのすじみち。
注6 俯瞰＝高いところから見おろし、ながめること。

問1 ——線①「間借りしているだけ」とありますが、ここではどういう意味でいっていますか。よいものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア 得た知識をわすれそうになっているということ。
イ 得た知識が自分のものになっていないということ。
ウ 得た知識が必要のないものであったということ。
エ 得た知識を使わずしまいこんでいるということ。 〔 〕

問2 〰線a・bは、ア事実、イ筆者の意見、のどちらですか。それぞれ記号で答えなさい。 a〔 〕 b〔 〕

問3 ——線②「登山で、道なき道を……わからなくなります」とありますが、筆者は、どんなときのことをたとえてこう言っていますか。文中から十二字で書きぬきなさい。

問4 □A・Bにあてはまることばの組み合わせとしてよいものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア A たとえば B つまり
イ A あるいは B しかし
ウ A さて B ただし
エ A ところが B そして 〔 〕

問5 ——線③「少しずつ、少しずつ」とありますが、これとにた意味で使われていることばを文中から五字以内で書きぬきなさい。

問6 ——線④「学ぶにつれて……自分が生きている世界が見えてきます」とありますが、この状況は登山でいうとどういう状況ですか。文中から十三字で書きぬきなさい。

問7 この文章で筆者がのべている内容と合うものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア 学ぶということは、山を登ることと同じなので、まずはものごとを俯瞰して見るための知識が不可欠である。
イ 学ぶということは、山を登ることと同じなので、途中で周りの出来事に気を取られないことが不可欠である。
ウ 知識を教養として身につけるためには、まず因果関係のないことがらを取りのぞいていく作業が不可欠である。
エ 知識を教養として身につけるためには、新しい意味、あるいは因果関係を見つけていく作業が不可欠である。 〔 〕

●対義語

2

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

「ごらんなさいな、この収穫を」

そういって、農家の人は荷台に積んだ刈り取ったばかりの稲のたばを指しました。

「今日から稲刈りがはじまったんです。わたしたちがそだてた稲なんです」

草で編んだぼうしをかぶった男性が、［　　］声でいいました。彼は二頭の牛の手綱をとっていました。車は木造で、かなりの年数がたっているようでした。七人の家族が乗っていました。おじいさん、おばあさん、男性の妻、そして三人の子どもです。

「今期は豊作です。年の前半は雨が不足してひどい目にあったんだ。田んぼが地割れするほどになって、なかなか田植えができなかったからね」

東南アジアの国々のほとんどが二期作です。暑い国では、年に二度の田植えと収穫があるのです。場所によっては三期作も可能なほどです。日本も昔は二期作の地域がありましたが、いまでは、年に一度しか作りません。

田んぼには、十分な水気とやわらかな土が必要なだけに、苗を植えるときに日照りがつづくと、とたんにかたい土になってしまって、苗がそだちません。

①人びとは雨ごいの祈りもしますが、天は、くる日もくる日もぎらぎらとした太陽しか、あたえないことがあります。②そんなときは、農家ではとてもつらくなります。

「たくわえのない貧しいわたしたちは、今年の前半は、トウモロコシやイモ、草などを食べてすごしました。③それもたりないくらいで、すっかりやせてしまったんです。かわいそうだったのが、子どもたちです。食べざかりですから。借金も増えました。でも、こんどの収穫で返すことができるでしょう」

インドネシアの農家の人の言葉です。いかにも一安心したという家族の気持ちが、強く伝わってきました。

農作物の成長や収穫が、天候によって変化してしまうのは、日本もヨーロッパやアメリカも、世界中が同じようなものです。けれど、東南アジアの農村の場合は、いまだに水のたくわえの設備がすくないところが多いのです。井戸水も不足するところもありますし、小さなため池や大きな貯水湖も、人びとに十分に行きわたるほどにはありませんから、④日本よりもずっと水不足にはなやまされています。

東南アジアの気候は、大まかにいえば雨季と乾季にわけられます。雨季にはたくさんの雨が降りますが、乾季には、一滴の雨も降らないこともあって、強く太陽に照らされつづけますから、土がからからにかわいてしまうのです。

雨季のあいだに、大量に降った雨でできた大きな水たまりのような池も、乾季にはまたたく間に干し上がっていきます。南の国々の太陽は、それほどにも強いといえます。それだけに、田畑にうるおいをあたえるには、かなり大きな川や湖が必要となります。⑤自然の条件にめぐまれた地域はひとまず安心なのですが、そうでないところには人工的な設備がかかせないことになってきます。

（大石芳野『生命の木　アジアの人びとと自然』）

問1　［　　］にあてはまることばとしてよいものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア　冷静な　　イ　しずんだ

ウ　切実な　　エ　はずんだ

〔　　〕

問2　――線①「人びとは雨ごいの祈りもしますが、天は、くる日もくる日もぎらぎらとした太陽しか、あたえない」とは、つまりどういうことですか。「雨」「必要」という二語を使って、「～こと。」の形で、二十五字以内で書きなさい。

問3　――線②「そんなときは、農家ではとてもつらくなります」とありますが、何がつらくなるのですか。よいものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア　雨ごいの祈り　　イ　暮らし向き

ウ　農作業　　エ　暑さ

〔　　〕

問4　――線③「それ」が指している部分を、文中から書きぬきなさい。

〔　　〕

問5　――線④「日本よりもずっと水不足にはなやまされています」とありますが、東南アジアにくらべて日本で水が不足しにくいのは、何があるからですか。文中から九字で書きぬきなさい。

問6　――線⑤「自然の条件にめぐまれた地域」とありますが、何があることが「めぐまれた地域」といえるのですか。

〔　　〕

問7　この文章は、インドネシアの農家の事情について、実例をあげて感想をのべている前半と、実例から話を広げて問題点を考えている後半とに分けられます。後半の段落はどこからですか。その段落の初めの五字を文中から書きぬきなさい。

問8　この文章で、筆者がのべようとしていることの中心はどんなことですか。「東南アジア」「設備」の二語を使って、「～こと。」の形で、三十字以内で書きなさい。

3　次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

人はみんな、もっとおもしろく、もっと充実した時間をすごしたいって、思っているんだ。みんなもそうだろう？　だから、そういう人間になるために、①勉強している。

なかには、小学校や中学校、高校では勉強がキライだったのに、大学に入ったら急に勉強が好きになった、A、仕事を始めたら勉強をしたくてたまらなくなった、という人がいます。

②大学に入ってからや、仕事を始めてからの勉強のほうが、高校までの勉強よりもずっとむずかしいのに、好きになってしまう。なぜだろうか。

それは、高校までのように、

「これだけのことを覚えなさい」

と先生から押しつけられるものではなくて、自分のほうから、興味のあるものを求めて狩りに出かけていくようなものだからだ。アフリカの大平原で、自分の好きな獲物（注1）を追いかけているような感じ。ぼくも経験したけれど、メチャクチャ B 。自分から追いかけているのだから、勉強がイヤにはならないんだ。

広い知識の野原があって、そこにはいろんな動物が群れている。そのなかから、どれをつかまえようかと目を光らせる、そういう攻めの姿勢に入るんだね。

そのためには狩りのウデを磨いておかないと、獲物はなにもつかまえられない。

そう、小学校や中学校、高校は、狩りの道具を手に入れて、その使い方を覚える期間なんだ。

学校を卒業した先にある世界を想像してみよう。キミたちのお父さんやお母さんが生きている大人の世界だ。

問1　――線①「勉強している」とありますが、人は何のために勉強するのですか。次の文の（　）にあてはまることばを文中から十八字で書きぬきなさい。

（　）をすごせる人間になるため。

問2　A にあてはまることばとしてよいものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア　なぜなら　　イ　けれど
ウ　あるいは　　エ　ところで

〔　　〕

問3　――線②「大学に入ってからや、仕事を始めてからの勉強のほうが、高校までの勉強よりもずっとむずかしいのに、好きになってしまう」とありますが、それは高校を卒業してからの勉強がどのようなものだからですか。文中から三十三字でさがし、その初めと終わりの五字を書きぬきなさい。

から

問4　B にあてはまることばとしてよいものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア　むずかしい　　イ　苦しい
ウ　うれしい　　エ　楽しい

〔　　〕

これからの世の中は、大学の名前だけでは通用しない。自分がどれだけ注2好奇心のある人間であるかというのが、他人からためされてしまう。どんなことでも、自分からドンドン、

「知りたい、知りたい、知りたい」

というふうに、カベを突きやぶっていける人は、魅力的な人に見えるんだ。会社は、「この人に入ってもらいたい」と思うだろうし、「いっしょに仕事をしよう」と言ってくる仲間も集まってくるんだ。

けれど、言われたことしかできない人、新しいことをドンドン覚えていったり、いろんなことにチャレンジしていったりすることに興味を示せない人は、たとえいい大学を卒業したとしても、会社はとってくれないし、まわりに人も集まってくれないことになるんだ。

（齋藤孝『勉強なんてカンタンだ！』）

注1　獲物＝狩りをしてとったけものや魚。
注2　好奇心＝知らないことやめずらしいことに興味をもつ心。

問5　筆者は、小学校から高校までの間はどのようなことをする期間だとのべていますか。よいものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア　勉強の基本や勉強のしかたを身につける期間。
イ　かんたんなことや楽しいことを学ぶ期間。
ウ　自分が興味のあることを見つける期間。
エ　自分が興味のあることを進んで学ぶ期間。

〔　　〕

問6　――線③「好奇心のある人間」とありますが、どのような人のことですか。よいものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア　世の中で言われているいい大学を卒業した人。
イ　どんなことでも自分から知りたいと思う人。
ウ　言われたことが何でもきちんとできる人。
エ　新しいことを覚えることに興味を示せない人。

〔　　〕

問7　この文章を次のように大きく二つに分けるとすると、後半はどこから始まりますか。後半の段落の初めの五字を文中から書きぬきなさい。

前半……人は何のために勉強するのか。
後半……大人の世界で通用するのはどういう人か。

●対義語

例題　次の熟語の対義語を下から選び、記号で答えなさい。

不便（ア　便利　イ　船便　ウ　不満）

（　　）

解き方

・意味が反対や対になることばを**対義語**といいます。

・熟語の対義語も、熟語を組み立てる漢字の意味に注目すると、ことばの意味をつかむことができます。

不（…ではない）↔ 便（便利ではない）

答え　ア

おもな対義語は、ことばの意味もいっしょに覚えておく。

例・入学↔卒業　・形式↔内容
・円満↔不和　・集中↔分散
・賛成↔反対　・成功↔失敗

反対の意味の漢字が使われていることも多い。

例・有害↔無害　・発車↔停車
・悪意↔善意　・長所↔短所
・和食↔洋食　・上品↔下品

1　次の熟語の対義語を下から選び、記号で答えなさい。

(1) 収入（ア 支出　イ 収集　ウ 入手）（　　）
(2) 現実（ア 事実　イ 現在　ウ 理想）（　　）
(3) 苦手（ア 苦労　イ 得意　ウ 特技）（　　）
(4) 前進（ア 進歩　イ 目前　ウ 後退）（　　）
(5) 全体（ア 部分　イ 完全　ウ 身体）（　　）

2　次の熟語の対義語をあとから選び、記号で答えなさい。

(1) 許可（　　）　(2) 過去（　　）
(3) 北上（　　）　(4) 祖先（　　）
(5) 安全（　　）　(6) 進行（　　）
(7) 生産（　　）　(8) 開始（　　）

ア 未来　イ 禁止　ウ 消費　エ 終了
オ 停止　カ 危険　キ 子孫　ク 南下

3　次の□に漢字一字を入れて、対義語を作りなさい。

(1) 不満↔□　(2) 共感↔□
(3) 自動↔□　(4) 消火↔□
(5) 勝利↔□　(6) 本番↔□
(7) 戦争↔□　(8) 人工↔□

4　次の熟語の――線部の一字を書きかえて、対義語を作りなさい。

(1) 以上↔以□　(2) 最初↔最□
(3) 登校↔□校　(4) 退化↔□化
(5) 当選↔□選　(6) 出席↔□席
(7) 復習↔□習　(8) 悲観↔□観
(9) 閉会↔□会　(10) 積極↔□極

5　次の熟語の対義語を、あとの漢字を組み合わせて作りなさい。（同じ漢字は二度使わないこと。）

(1) 暗黒↔□　(2) 賛成↔□
(3) 発信↔□　(4) 病気↔□
(5) 原因↔□　(6) 失敗↔□
(7) 解散↔□　(8) 精神↔□

功　合　結　対　信　反　受　明
健　成　光　体　肉　果　康　集

漢字の学習15

――線部の漢字は読みをひらがなで書き、かたかなは漢字に直しなさい。

(1) 三角形の底辺。　(2) 仲間と協力する。
(3) 表札をかける。　(4) 熱いふろに入る。
(5) 陸上きょうぎに出る。　(6) 池の周りを歩く。
(7) 木の葉の色が変わる。　(8) 風の便りで聞く。
(9) 公約を守る。　(10) 倉のかぎをしめる。
(11) 美しいシロが建つ。　(12) トヤマ県を通る。
(13) イバラの道を進む。　(14) ショウチクバイのかざり。
(15) ネンガ状を書く。　(16) 畑にタネをまく。
(17) テレビ番組をロクガする。　(18) ジコウのあいさつをする。
(19) カガイ活動をする。　(20) 魚のムれを見つける。

16 文学的文章の読み方

ここまでの復習の単元です。
それぞれの問題に関連する単元を⑧〜⑫で示しています。

●慣用句

(1) **物語文**

作品の中に出てくる主人公や、それをとりまく人々の行動・事件などを通して、人間の生き方や心理、世の中の姿などをえがき出した文章を、物語文（または小説文）といいます。

次のことがらをもとにして組み立てられています。

① 主題（作者の考え）
作品を通じて作者が表そうとしている考えで、「テーマ」とも言います。

② 人物（だれが）
作品の中で中心となっている人物のことを「主人公」といいます。

③ 場面（いつ・どこで）
作品の中にえがかれている人物が、どういう時代の、どんな時に、どんな場所で生活しているか、など。

④ 事件（何を・どうして・どうなった）
人物の行動によって起こるいろいろなできごとを事件といい、その事件によって小説の筋ができています。

次の点に気をつけて読み取りましょう。

① 話のあらすじ（だいたいの内容）をとらえる。
② 登場人物の気持ちを読み取る。
・人物の行動・会話・情景に着目する。
・文章の表現（慣用的な表現・暗示的な表現）に着目する。
③ 場面や情景をとらえる。
・場面の様子や変化に着目する。
④ 主題を読み取る。
・情景、人物の行動や心情に着目する。
・できごとの変化とそれにともなう人物の心情の変化に着目する。

(2) **随筆文**

形式にとらわれずに、作者が見たり聞いたりしたことなどを感想や考えなどをまじえて書いた文章を、随筆文といいます。作者が心にうかんだことがらを自由に書いているので、作者の人がらや個性が直接的にあらわれているのが特色です。

次の点に気をつけて読み取りましょう。

① 表現の工夫をとらえる。
・たとえなどの、筆者独特の言い回しに着目する。
② 筆者の思いを読み取る。
・題名やくり返し出てくることばに着目する。
・出来事や体験から筆者がどういう感想を持ったかに着目する。

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

「［　A　］。」
「おや、知ってるのかい？　このおチビちゃんたちを。」
「［　B　］。」
わたしが、窓から外にほうり投げちゃった人形だもの。どうしてここにあるのかしら。わたし、ずいぶん、さがしたのよ。」
七海は、目を見はりながら、まめっこを手に取りました。①裏返してみたり、足を動かしたりしました。
まめっこは、ドキドキで［　C　］がはちきれそうになりました。七海の「ずいぶんさがした。」って言葉が胸いっぱいに広がり、たちまち、投げられたつらさがきえていきました。
「どうしてかって？　こっちが聞きたいよ。その人形、神崎雪枝さんの家の前に落ちてたのよ。あなたは、どうして窓からほうり投げたりしたの。」
「［　D　］。」
七海は、言いにくそうにしながらも、菜月とのけんかのいきさつを話しました。
②でも、ほうり投げる前、わたし、聞こえた気がしたの。」
「聞こえたってなにが？」
「この人形の声。おかしいでしょう。でも、そのときは、ほんとうに聞こえたと思ったの。」
七海は、買った連絡帳とお財布をバッグにしまいながら、首をひねってみせました。
「だから、ずっとこの人形のことが、気になっていたの。よかった。ここにあって。」
（赤羽じゅんこ『にげだしたはりっこ人形』）

問1 ［　］A・B・Dにあてはまることばとしてよいものを次のうちから選び、記号で答えなさい。 ⑧
ア 知ってる。知ってる
イ それは……
ウ あーっ。この人形

A（　　）B（　　）D（　　）

問2 ——線①「裏返してみたり、足を動かしたり」とありますが、このことから七海のどんな気持ちがわかりますか。よいものを次のうちから選び、記号で答えなさい。 ⑩
ア 人形で遊んでみたい気持ち。
イ 人形がこわれていないか心配する気持ち。
ウ さがしていた人形かどうかうたがう気持ち。
エ もう一度人形の声を聞きたい気持ち。
（　　）

問3 ［　C　］にあてはまることばを次のうちから選び、記号で答えなさい。 ⑪ ②
ア 腹　イ 胸　ウ 頭　エ のど
（　　）

問4 ——線②「でも、ほうり投げる前、わたし、聞こえた気がしたの」とありますが、人形の声を聞いて、七海はどんな気持ちになったと考えられますか。よいものを次のうちから選び、記号で答えなさい。 ⑩
ア 楽しい気持ち。　イ くやしい気持ち。
ウ こわい気持ち。　エ 後悔する気持ち。
（　　）

2

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

しまふくろうのお父さんの目は、暗い夜でもよく見えました。どんな小さなものも見のがしません。しかし、魚は湖のそこにいて、水面近くにまだあらわれません。

お父さんは、流木にとまって、はねを休めることにしました。

しまふくろうのお父さんは、魚が水面にあらわれるのをしずかにまちました。はねをたたんでいる時でも、耳をじっとすませています。

あたりは物音一つしません。

しずかなしずかな湖です。

その時、

「ピーッ！」

ひなの声がひびきわたりました。おなかをすかせているのです。

①「ボッ！　ボッ！」

お父さんはひくく答えました。

「ボッ！」

お母さんも鳴きました。

しずかな湖の上を、親子の声がとびかいます。

その時、月のかげがかすかにゆれて、遠くで魚のはねる音がしました。

②しまふくろうのお父さんは、いきおいよくまい上がりました。

「見つけた！」

ねらいをつけます。月の光にきらりとはねが光りました。

「今だ！」

目がかがやき、③音もなく近づくと、するどいつめで、しまふくろうのお父さんは、しっかりと魚をつかんでまい上がりました。夜空

問1　この文章の、主な場所と時をそれぞれ書きなさい。

⑧
場所　（　　）

時　（　　）

問2　――線①「ボッ！　ボッ！」というしまふくろうのお父さんの声は、どんなことを伝えようとしているのですか。よいものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

⑩
ア　もう少し待っていろよ。

イ　ここにいるから安心しろよ。

ウ　うるさくするな。

エ　お父さんを助けてくれ。

（　　）

問3　――線②「しまふくろうのお父さんは、いきおいよくまい上がりました」とありますが、それは何をするためですか。「～ため。」の形で、十五字以内で書きなさい。

⑧

問4　――線③「音もなく近づく」とありますが、だれが何に近づくのですか。

⑧
だれが　（　　）

何に　（　　）

いっぱいに大きなつばさが広がりました。

「お父さんが帰って来るよ。大きな魚を持っているよ。」

④子どもは、お父さんのあたたかい大きなはねの中に入りました。

後ろの湖では、波もんがどんどん広がってゆきました。

波もんは湖いっぱいに広がりました。魚を食べる親子のすがたも、月の光にゆれました。

しまふくろうのお父さんとお母さんは、夜明けまで、いくども交たいで、魚をとりに出かけました。

［　　］、しまふくろうの親子のすがたは見えなくなりました。

湖に朝ぎりがかかりました。夜明けが近いのです。

山も湖もあおあおとかがやきました。いっせいに小鳥たちが鳴き始めました。今日も、湖の一日が始まります。

そのころ、しまふくろうの親子は、大きな木のうろ（あな）の中でねむっています。夕方、また元気なすがたを、あらわしてくれることでしょう。

（手島圭三郎『しまふくろうの湖』）

問5　――線④「子どもは、お父さんのあたたかい大きなはねの中に入りました」とありますが、そのときの子どもの気持ちとしてよいものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

⑩
ア　安心　　イ　悲しさ

ウ　こわさ　　エ　おどろき

（　　）

問6　［　　］にあてはまることばとしてよいものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

⑪
ア　星がいっそう明るくかがやくころ

イ　星の光が消えたころ

ウ　星が夜空に一つ二つとあらわれるころ

エ　星が夜空いっぱいにかがやくころ

（　　）

問7　次のうち、この文章にかかれていることと合っているものは○、合わないものは×で答えなさい。

⑫
(1)　しまふくろうは、昼も夜も魚をとっている。

(2)　しまふくろうは、つめで魚をつかんでとる。

(3)　しまふくろうは、お父さんが魚をとり、お母さんはずっとひなを守る。

(4)　しまふくろうは、暗いところでも目がよく見える。

(1)（　　）　(2)（　　）　(3)（　　）　(4)（　　）

3

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

ある朝、雨戸をさっと開けると、いつもの美しい注1光彩を帯びた庭に①ぎょっとするような異変が起きていた。玄関脇から部屋沿いに五十センチとか一メートル置きぐらいに醜く土が盛り上がり、春には緑を回復する苔も台なしに、無惨に掘り返されている。

「もぐらだ！」じつに久しぶりの光景である。ほぼ二十年ぶりにもぐらが庭中を走りまわったらしい。調べてみると家のまわりに十箇所くらいのもぐら穴があいている。これはもぐらが地下道を掘りながら所々に土を掻き出したものである。どうして今頃になって、もぐらが出てきたのだろう。早速に植木屋さんに来てもらい②対策を立てる。どうやら、すぐそばにある注2某社の社員用グラウンドのハウスが建て直されることになったため、解体の地響きに驚いて移動して来たにちがいないということになった。

もぐらは光に弱くてほとんど眼が見えないが、とても大食漢だという。まずはその好物のみみずを餌にしてもぐら罠を仕掛けることにした。罠はごく簡略なもので、口径十センチ、長さ三十センチくらいのブリキの注3円筒に、一度入ったら出られないようにヘラ状のものをつけ奥に餌を入れて、もぐらの通路に置いておく。

待つこと三日、③何ともぐらは餌だけを取ってみごとな罠ぬけをやってくれた。その上これみよがしに庭中に地下道を掘りめぐらし、土を掘り上げてある。野良猫がやってきた。決まった時間にこの庭を横切る顔なじみの猫だ。もぐらの土を嗅いでいる。何だか胡散臭い顔をしてしばらく立ち止まり、去って行った。植木屋さんはもぐらがいるのは土がいい証拠だと、何年もその手で手入れをしてきた土を自慢しほめてくれた。

それから何日かして梅が咲いた。頭のいい④もぐらを取りあぐねて、私と植木屋さんはまた相談を重ねた。人間はまったく注4利己主義で、たかが一、二匹もぐらが居る庭に我慢がならない。その顔を見たこともないが、もし子育て中だったら、大食いのもぐらは一日中地中を掘りまわって、餌のみみずや虫の卵を見つけるのに大変なはずだ。可哀そうだなあ、と思うもののやっぱり不当な注5闖入者のようで同居はいやなのだ。春になればもっと活動は激しくなる。ちっぽけな庭に、さらに椿が咲き、桃が咲くとき、その下にもぐらの道があることが、どうしても許せないのである。

「じゃあ、ガスを使おうか」と植木屋さんが言った。「えっ、ガス」。その瞬間、私は注6アウシュヴィッツを思い、庭の地下道でもぐらの一家が惨死している光景を想像してぞっとした。そんならやっぱりもぐらと同居したほうがましである。この春もぐらはどのくらい庭を走り回るだろう。「よし、許してやるとも」と呟くと、気持ちもやっと落ち着いたようだ。木蓮の蕾もすこうし膨らんで、「もぐらの受け入れにずいぶん時間をかけたねェ」と笑ったような気がする。

（馬場あき子「もぐらが来た」（『美女という災難』所収））

注1　光彩＝きらきらと輝く、美しい光。
注2　某社＝ある会社。「某」は、人やものの名前がわからないときや、わざと隠すときに添える語。
注3　円筒＝まるい筒。
注4　利己主義＝自分の利益や快楽だけを追求する考え方。
注5　闖入＝突然、無断で入りこむこと。
注6　アウシュヴィッツ＝第二次世界大戦中、ナチスードイツにより作られた強制収容所。
注7　惨死＝むごたらしく死ぬこと。

問1　——線①「ぎょっとするような異変が起きていた」について、次の問いに答えなさい。　⑧

(1)「異変」の様子が具体的にのべられている一文を文中から さがし、初めの五字を書きぬきなさい。

(2)「異変」が起きた原因は何でしたか。

問2　——線②「対策を立てる」とありますが、どんな対策ですか。その内容がわかるひと続きの二文を文中からさがし、初めと終わりの五字を書きぬきなさい。　⑧

〔　　〕

問3　——線③「何ともぐらは餌だけを取ってみごとな罠ぬけをやってくれた」とありますが、ここから筆者のどんな心情がわかりますか。よいものを次のうちから選び、記号で答えなさい。　⑩

ア　もぐらの意外な頭のよさにおどろき、あきれている。
イ　もぐらのおかげで土のよさが証明され、喜んでいる。
ウ　もぐらの頭のよさを知ることができ、感謝している。
エ　もぐらにも野良猫にも相手にされず、悲しんでいる。

〔　　〕

問4　——線④「もぐらを取りあぐねて、私と植木屋さんはまた相談を重ねた」とありますが、筆者はもぐらを取ることに対してどんな気持ちでいますか。次の文の（　）a・bにあてはまることばを、それぞれ七字で文中から書きぬきなさい。　⑩

子育て中だったら（ a ）という気持ちと、庭に居られることに（ b ）という気持ち。

a　　b

問5　この文章の内容と合うものを次のうちから一つ選び、記号で答えなさい。　⑫

ア　筆者は、モグラは退治しなくてもやがていなくなるだろうと、考えるようになった。
イ　筆者は、モグラを退治しようとしていたことを深く反省し、大いに歓迎することにした。
ウ　筆者は、モグラを退治することはあきらめ、気は進まないが受け入れることにした。
エ　筆者は、モグラを退治することよりも、走り回る姿を見ることに興味を持ち始めた。

〔　　〕

●慣用句

例題　次の慣用句の意味をあとから選び、記号で答えなさい。

(1)　雲をつかむよう（　　）
(2)　うでが鳴る（　　）
(3)　さばを読む（　　）

ア　自分の力を見せたくてはりきる。
イ　ぼんやりしていて、つかみどころがない。
ウ　数をごまかす。

解き方

・二つ以上のことばが結びついて特別な意味を表すことばを**慣用句**といいます。

例　＊雲をつかむよう…実際に雲をつかむことはできない。
　　↓
　　「つかむことができない雲をつかもうとするくらい、ぼんやりしている」というたとえ。
　＊うでが鳴る…うでまえや力量を見せたいということを表す。
　＊さばを読む…さばはいたみやすい魚なので、急いで数を数えると実際の数と合わなかったということからできたことばといわれる。

ことばの成り立ちを知ると、意味を覚えやすい慣用句もある。

答え　(1)　イ　(2)　ア　(3)　ウ

1　次の慣用句の意味をあとから選び、記号で答えなさい。

(1)　あいづちを打つ（　　）
(2)　口車に乗る（　　）
(3)　息をのむ（　　）
(4)　目をかける（　　）
(5)　かたを持つ（　　）
(6)　白い目で見る（　　）
(7)　けがの功名（　　）
(8)　油を売る（　　）

ア　特にかわいがって世話をする。
イ　味方をする。
ウ　むだ話をしてなまける。
エ　人を冷たい目つきで見る。
オ　相手の話に合わせて受け答えをする。
カ　失敗だと思ったことが、思いがけず良い結果を生むこと。
キ　相手の口先だけのことばにだまされる。
ク　はっと、おどろく。

2　次の□に動物や植物に関わる漢字を入れて、慣用句を完成させなさい。

(1)　□が合う
(2)　□のつぶて
(3)　□をわったよう
(4)　□の息
(5)　飼い□に手をかまれる
(6)　□を持たせる
(7)　飛ぶ□を落とすいきおい
(8)　根も□もない

3　次の文中の――線部の意味に合う慣用句をあとから選び、記号で答えなさい。

(1)　試合がおもしろくて、テレビの前で全く動けない。（　　）
(2)　先生が、やり方をていねいに教えてくださった。（　　）
(3)　弟は、何でもすぐにしゃべってしまう。（　　）
(4)　今ごろわすれ物に気づいても手おくれだ。（　　）
(5)　どんなに努力してもむだだとあきらめる。（　　）
(6)　友達は、何か他のことが気になっている様子だった。（　　）
(7)　期待にこたえて役目を果たせてほっとする。（　　）
(8)　「自分は将来必ず有名になる」と、彼は大きなことを言う。（　　）

ア　さじを投げる
イ　手取り足取り
ウ　口が軽い
エ　上の空
オ　くぎづけになる
カ　かたの荷が下りる
キ　大ぶろしきを広げる
ク　後の祭り

4　次の――線部の慣用句の使い方が正しいものには○を、まちがっているものには×を書きなさい。

(1)　今日からは規則正しく生活しようと、えりを正す。（　　）
(2)　うの目たかの目で、美しい景色をながめる。（　　）
(3)　みんなの前でほめられたので、あごを出す。（　　）
(4)　十分に練習を重ねてきたのだから、あとは本番で全力を出すだけだとはらをくくる。（　　）
(5)　友達がおこっているので、落ち着くように水を差す。（　　）
(6)　気が置けない人なので、いっしょにすごすことができない。（　　）

漢字の学習16

――線部の漢字は読みをひらがなで書き、かたかなは漢字に直しなさい。

(1)　愛媛県のみかんを食べる。（　　）
(2)　世界平和を望む。（　　）
(3)　文法を学ぶ。（　　）
(4)　羊を放牧する。（　　）
(5)　節目の年をむかえる。（　　）
(6)　競馬を見る。（　　）
(7)　会合に夫人をよぶ。（　　）
(8)　ばつの印を付ける。（　　）
(9)　梅の花を見る。（　　）
(10)　初めて海外に行く。（　　）
(11)　オカヤマ県から出発する。（　　）
(12)　サガ県の焼き物。（　　）
(13)　サクヤ未明の出来事。（　　）
(14)　ジヨウのある食べ物。（　　）
(15)　ケンコク記念の日をいわう。（　　）
(16)　タンゴで答える。（　　）
(17)　サンチョウ円の予算。（　　）
(18)　タイレツを整える。（　　）
(19)　ニイガタ県の米を買う。（　　）
(20)　ギフ県に引っこす。（　　）

17 物語文

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

学校から帰ったとき、母さんはるすだった。げんかんのドアはしまっていたので、うら口からはいると、キッチンのテーブルの上に百円玉と十円玉が二十個ぐらい、ばらばらにほうりだしてあった。

ぼくはとっさに①百円玉を二つつかむと、ズボンのポケットにおしこんだ。魔がさしたというやつだ。しかし、②母さんはきっと気づかないだろうと思ったこともたしかだ。母さんは、あまりきちょうめんなほうではない。

自転車にとびのり、スーパーのとなりの本屋までとばした。きょう発売のマンガ週刊誌が、もう店頭にならんでいるはずだ。

先週は、夕方にいったらすでに売り切れていた。その帰りに缶ジュースを飲み、ゲームセンターで遊んだ。だから、ぼくの全財産は三十円しかなかったのだ。

雑誌をわきにかかえて帰り、げんかんのドアをあけると、目のまえに母さんのひきつった顔があった。母さんとならんで、一年生の美香も、母さんのまねをして、しかめっつらで立っている。

「来月のおこづかいで返すつもりだったんだ」

「うそばっかし」

ぼくの返事を母さんはかるくはねつけた。

「わかりっこないと思ってたのでしょう。顔にそう書いてあるわ。うそつきは、どろぼうのはじまりよ」

母さんは、ちょっと笑った。

「はじまりどころか、もうりっぱな［　　］だけど」

母さんにつられて、美香も笑った。③矯正中の歯にはめた金具が、きらきら光っている。なんということだ。くやしかったが、いい返すことばが見つからない。

「お父さんにも話しますからね。かくごしておいて」

さいごに母さんはいった。強烈なとどめのパンチだ。④わきにかかえた雑誌が、いやに重たい。ますますゆううつになった。

きょうは、三月さいしょの金曜日。父さんが帰ってくるのは、十時をすぎるだろう。ぼくはいつもより早く、九時半にベッドにもぐりこんだ。だが、父さんの会社は週休二日制だから、あすはいやでも顔をあわせなければならない。

注よく朝、ぼくが学校にでかけるとき、父さんはまだねていた。牛乳をコップで一ぱい飲み、トーストを一枚たべたきり、家をでた。学校についたのは七時半、⑤教室に一番のりしたのは、入学いらいはじめてだった。

時間のたつのが、なんと早かったことか。あっというまに四時間目がすぎ、終業のチャイムが鳴った。

家に帰りたくなかったが、家出をしようにも行くあてはない。当番でもないのにそうじを手つだい、一時近くなってやっと校門をでた。

（砂田弘『お父さんたちの四季』）

注　よく朝＝土曜日を指す。この話が書かれた当時は、学校の多くは週休二日制ではなく、土曜日も午前中に授業があった。

問1　――線①「百円玉を二つつかむと、ズボンのポケットにおしこんだ」とありますが、そのお金でどうするつもりだったのですか。「～つもりだった。」に続く形で、二十字以内で書きなさい。

つもりだった。

問2　――線②「母さんはきっと気づかないだろうと思った」とありますが、「ぼく」はなぜそう思ったのですか。その理由がわかる一文を文中からさがし、初めの六字を書きぬきなさい。

問3　［　　］にあてはまることばを文中から五字以内で書きぬきなさい。

問4　――線③「矯正中の歯にはめた金具が、きらきら光っている」とありますが、これを見たときの「ぼく」の気持ちとしてよいものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア　心配してくれてありがたい。
イ　うそがばれて、いっそすがすがしい。
ウ　兄としてはずかしい。
エ　あざ笑われたようではらだたしい。

（　　）

問5　――線④「わきにかかえた雑誌が、いやに重たい」とありますが、これは何の重さを感じているのだと言えますか。よいものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア　母さんと美香のことばの重さ。
イ　家族のせきにんの重さ。
ウ　話を聞いた父さんの気持ちの重さ。
エ　自分がやってしまったことの重さ。

（　　）

問6　――線⑤「教室に一番のりしたのは、入学いらいはじめてだった」とありますが、こんなに早く学校に行ったのはなぜですか。「顔」ということばを使って、二十字以内で書きなさい。

問7　この文章を大きく三つの場面に分けるとすると、第二、第三の場面はどこからですか。段落の初めの五字を文中からそれぞれ書きぬきなさい。

第二

第三

2　次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

「だから、①早くしろって、いっただろう」

と、どなる黒田の声がした。

どなられているのは三田くんで、黒田に首根っ子をつかまれている。そばで山本がサッカーボールをかかえて、三田くんをにらんでいる。

ぼくは校庭を見た。サッカーをやっているのは二組だった。三田くんは、放課後いちはやく、校庭の場所取りをやるように、山本らにいわれていたのだろう。

怒った山本が、いきなりボールを、三田くんの顔めがけて蹴った。三田くんは、危うく手でよけたが、そのまま涙をぽろぽろと流しだした。

ぼくは、困ったことになったと思っていると、秋月さんが廊下に出て箒を置き、ころがっているボールを取り上げて怒った。

「よしなさいよ、弱い者いじめは。それにいま掃除中、じゃましないで」

「おい、そのボール、こっちへよこせ！」

黒田がすごんで、そこにあった箒を秋月さんに振り上げて、おどしたときであった。

「なめるんじゃねえよ！」

あまりの声の大きさに、掃除をしていた全員が、手をとめ息をのんで振り返ると、秋月さんが、黒田の手から箒をもぎとって、あっ！　というひまもなく、その箒で黒田のしりを思いっきりたたいた。

「な、なにするんだ！」

「チンピラはどきな」

秋月さんは、②黒田をとんと突き飛ばすと、大きな目を山本に向けた。

「やる気か」

山本が顔色をかえていった。だが秋月さんは落ち着いて、

「なめるなといったろう」

と、しずかにいった。

「ちくしょう！」

山本は、秋月さんに飛びかかろうとした。

「山本くん、やめなよ。いじめはよくないよ」

ぼくは、気がつくと夢中で山本をとめていた。

「なに？」

③山本はおどろいたように、ぼくの顔を見た。が、

「黒田、いこうぜ」

と、ボールを拾って廊下から去っていった。

「松木くん、やるじゃん」

女の子たちがいった。ぼくは、④ほっと息をついた。自分でもおどろいたことであった。ほんとうは、こわかったんだ、と思った。すると、そんなぼくの心を知ったわけではないだろうが、秋月さんも、

「ああ、こわかった」

といって、首をすくめて笑った。

女の子たちが、とてもかっこよかったというと、

「⑤あれって、芝居のせりふ。わたし、国定忠治しちゃったんだ」

と、てれたようにいった。

（浜野卓也『さよなら友だち』）

問1　――線①「早くしろ」とありますが、何を早くしろということですか。文中から十字以内で書きぬきなさい。

問2　――線②「黒田をとんと突き飛ばすと、大きな目を山本に向けた」とありますが、それはなぜですか。よいものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア　山本がいじめのボスだから。
イ　山本が秋月さんをばかにしたから。
ウ　山本が弱そうだから。
エ　山本が怒っているから。

（　　）

問3　――線③「山本はおどろいたように」とありますが、なぜおどろいたのですか。よいものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア　「ぼく」が山本に注意をするとは思わなかったから。
イ　「ぼく」がそんなにけんかが強いとは思わなかったから。
ウ　掃除中の秋月さんが急に怒り出すとは思わなかったから。
エ　秋月さんが三田くんに味方するとは思わなかったから。

（　　）

問4　――線④「ほっと息をついた」とありますが、このときの気持ちを表すことばとしてよいものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア　感謝
イ　安心
ウ　緊張
エ　おそれ

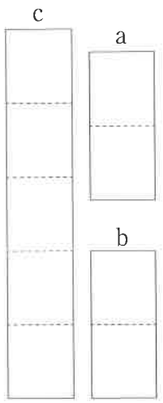
（　　）

問5　――線⑤「あれって、芝居のせりふ」とありますが、どのことばを指していますか。文中から三つ書きぬきなさい。

（　　）（　　）（　　）

問6　この場面での「箒」の動きについてまとめた次の（　）a～cにあてはまることばを、a・bは二字、cは五字で、それぞれ文中から書きぬきなさい。

秋月さんが（　a　）に置いた。⬇（　b　）が振り上げて、秋月さんをおどした。⬇秋月さんがもぎとって、（　c　）をたたいた。



3　次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

妻の顔に日が当たっていた。三蔵の祖父たちが植えたと伝えられる杉の木立が、天を向いてならんでいる。その上には雪の山が、日を浴びてそびえているのだった。くらかけ山はその雪山のずっと下の低い山だ。森に包まれている。風がないので、動くものはない。

「①山の神様にお別れしてきたんなら、それはそれでしようがないべ。」

草の上に腰を落とした妻が、静かに言う。②山の中の出来事をまるで見てきたように言うのが、三蔵には不思議だった。三蔵が熊をとってくるのは一年に一頭ぐらいだったが、それを売った金が入らなくなる。③生活に困るはずなのに、妻はまったく動じる様子もなかった。不意にこんな気持ちになった自分自身のことさえも、三蔵にはまったくわからないのであった。鳥の声もしない。その静かな中に、三蔵は負けん気とともに言葉をもらすのだ。

「きょうは調子が悪かっただけで、また狩りには行くべ。」

「それはいけないよお。」

思いがけず妻は泣きだしそうなほどの大声を出した。三蔵がどう返事をしてよいかわからずだまっていると、妻が話しつづけた。

「④一度お別れしたのに鉄砲を持って山に入ると、神様がおこるべ。おこったらどんなことになるかわからないべ。」

そんなことは絶対に許されるはずがないというふうに、妻は強く言う。三蔵はこわくなった。まるで山の神様がここに降りてきておこっているかのようだった。妻はまた口を動かした。

「だんだん年をとるにつれ、いつあんたが熊にやられるかと、山に入るたびに心配でたまらなかったよ。あんたが自分で熊を撃たねえと言うまで、じっと待っておったんだよ。子どもたちは出ていって、もう夫婦二人しかいねえんだ。田んぼと畑つくって、山に薬草をとりにいくだけで、御飯は食べられるべ。」

途中から泣き声で話す妻の言葉に、三蔵はなっとくした。子どもたちは五人いたが、街で働いていたり、よその農家に嫁に行ったりして、家に残っているのは三蔵と妻だけだった。きょう山であったことを、三蔵は思いだす。⑤撃とうとした熊は、幼い子を二頭連れていて、嫁にやった娘と同じようなものではないか。熊の姿をしているだけで、娘と同じように一生けんめい子どもを育てている母親を、どうして撃つことができるだろうか。あの母熊は自分の命を捨て、子熊たちを守ろうとしたのだ。

「これまでおれは何頭も熊を撃ってきたんだべ。熊の子もとってきたべ。だからこの命は、熊にくれてやろうと、ずっと前から思ってたんだ。命きたなくはしねえべと決めていたんだ。」

話している間、なみだで声がつまりそうになりながら、やっと三蔵はこれだけのことを妻に伝えた。

こう話してから、熊が一生けんめいに生きている様子が見えてくるような気がした。自分はたまたま人間に生まれたのだが、熊も鹿も犬も鳥も虫も魚も、たまたまそのように生まれたのにすぎない。みんな自分の命がいとおしくて、そのことになんの変わりもないのだとわかってきた。山で会った親子連れの熊のおかげで、三蔵はこれまでになく深く考えていた。

（立松和平『くらかけ山の熊』）

問1　この文章の場面を説明した次の文の（　）a～cにあてはまることばを、aは二字、b・cは一字で、文中からそれぞれ書きぬきなさい。

りょうしの（a）が、（b）を撃たないで山を下りてきて、（c）と話している場面。

a［　　］
b［　　］
c［　　］

問2　――線①「山の神様にお別れしてきた」とはどういうことですか。「三蔵」ということばを使って、「～ということ。」という形で、十五字以内で書きなさい。

［　　　　　　　　　　　　　　　］

問3　――線②「山の中の出来事をまるで見てきたように言うのが、三蔵には不思議だった」とありますが、同じように三蔵が妻の口調に不思議さやおそれを感じていることがわかる一文を文中からさがし、初めの六字を書きぬきなさい。

［　　］

問4　――線③「生活に困るはず」とありますが、これについて妻はどう考えていましたか。それがわかる部分を文中から三十二字でさがし、初めと終わりの五字を書きぬきなさい。

［　　］

問5　――線④「一度お別れしたのに鉄砲を持って山に入ると、神様がおこるべ」ということばを、妻はどんな口調で言ったと考えられますか。よいものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア　きっぱりした口調。　イ　ほこらしげな口調。
ウ　おどおどした口調。　エ　うれしそうな口調。（　　）

［　　］

問6　――線⑤「撃とうとした熊」は、そのときどんな行動をしましたか。それがわかる一文を文中からさがし、初めの五字を書きぬきなさい。

［　　］

問7　この文章でえがかれている三蔵のすがたの説明としてよいものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア　熊と一体化し、自分やほかの家族をまるで熊のように考えている。
イ　妻を全面的に信じていて、自分の考えとちがっても妻にしたがおうとしている。
ウ　自分や家族の生活のために、気の進まない狩りを続けるべきかなやんでいる。
エ　自分やほかのものたちの命について、正面から向き合っている。（　　）

●ことわざ

例題　次のことわざの意味としてよいものをあとから選び、記号で答えなさい。

良薬は口に苦し　（　　）

ア　どんなに苦しいことでも、がまんして努力すべきだ。

イ　きき目のある薬は、なかなか見つからない。

ウ　自分のためになるような忠告は聞きづらいものだ。

解き方

・古くから言い伝えられている教訓を表す短いことばを**ことわざ**といいます。

＊**良薬**は口に苦し

きき目のある良い薬……苦くて飲みづらいもの
＝
自分のためになる忠告……うるさいと感じて聞きづらいもの
←
聞きづらいと思うような忠告でも、自分のためになるのだからしっかり聞いて受け止めたほうがよいという教え。

答え　ウ

1　次のことわざの意味としてよいものをあとから選び、記号で答えなさい。

(1)　すずめ百までおどりわすれず　（　　）

ア　いくつになっても好きなことを続けるのがよい。

イ　子どものころに覚えたことは年をとってもわすれない。

ウ　おおぜい集まると、自然と楽しい気持ちになるものだ。

(2)　朱に交われば赤くなる　（　　）

ア　付き合う相手次第で、人はよくなったり悪くなったりする。

イ　だれとでも、すぐにわかりあえる。

ウ　人はすぐになまけてしまいがちだ。

(3)　人のふり見てわがふり直せ　（　　）

ア　人の行動は、なんでもまねるのがよい。

イ　人の悪い行動を見たら、すぐに正すべきだ。

ウ　人の行動を見て、自分の行いを反省すべきだ。

2　次の意味に合うことわざをあとから選び、記号で答えなさい。

(1)　最後に残った物に、思いがけないよい物がある。　（　　）

(2)　朝早く起きると、何かよいことがあるものだ。　（　　）

(3)　何かをすると、思いがけなく悪いことやよいことにであうものだ。　（　　）

(4)　都合の悪いことを、知られないようにかくすこと。　（　　）

(5)　本当に能力のある人は、それを見せびらかさないものだ。　（　　）

ア　犬も歩けばぼうに当たる　　イ　くさいものにふた

ウ　残り物には福がある　　エ　早起きは三文のとく

オ　能あるたかはつめをかくす

3　次の□に漢数字を入れて、ことわざを完成させなさい。

(1)　石の上にも□年

(2)　人のうわさも七十□日

(3)　□階から目薬

(4)　三つ子のたましい□まで

(5)　なくて□くせ

(6)　□死に一生をえる

(7)　悪事□里を走る

4　次の文の――線部のことわざとにた意味のことわざをあとから選び、記号で答えなさい。

(1)　名人がまちがうなんて、さるも木から落ちるだ。　（　　）

(2)　姉にあそびに行こうと何度言っても、そっけない反応で、のれんにうでおしだ。　（　　）

(3)　転んで骨折したうえに、ひどいかぜまでひくなんて、泣きっつらにはちだ。　（　　）

(4)　十億円当たったら大きな家を買おうだなんて、とらぬたぬきの皮算用だ。　（　　）

(5)　うわさには聞いていたが、実際に見たら、論よりしょうこで本当に感動する映画だった。　（　　）

ア　ぬかにくぎ　　イ　百聞は一見にしかず

ウ　かっぱの川流れ　　エ　絵にかいたもち

オ　弱り目にたたり目

漢字の学習17

――線部の漢字は読みをひらがなで書き、かたかなは漢字に直しなさい。

(1)　きれいな花束をもらう。　（　　）

(2)　福岡県の駅に着く。　（　　）

(3)　学級委員長を選ぶ。　（　　）

(4)　大臣になる。　（　　）

(5)　教えを説く。　（　　）

(6)　苦労の末に成功する。　（　　）

(7)　未知の世界。　（　　）

(8)　例えばの話をする。　（　　）

(9)　体重を量る。　（　　）

(10)　人徳がある。　（　　）

(11)　カゴシマ県のおみやげ。　（　　）

(12)　ハクアイの心を持つ。　（　　）

(13)　サイタマ県の出身者。　（　　）

(14)　ヤマナシ県のぶどう。　（　　）

(15)　ミヤザキ県に出張する。　（　　）

(16)　部屋のテンジョウ。　（　　）

(17)　ジュンバンに発表する。　（　　）

(18)　テストのケッカが出る。　（　　）

(19)　友人とトモに歩む。　（　　）

(20)　キュウショクの時間。　（　　）

18 随筆文

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

昔は、幼児の泣き声はめでたい、とされた。

ある地方には、「泣き相撲」の風習が伝わっている。幼児二人を見合わせて泣かせるのである。勝ち負けを争うというより、大声で泣くのが元気な証拠、と喜んだのだろう。豊作を祈る行事であったかもしれない。[注1]みどりごの無心な泣き声は、聞く者に快い響きであったはずなのに、いつのまにか、騒音と同然に論じられるようになってしまった。

①公園で遊ぶ子らの歓声が耳ざわりである、と訴えた人がいて驚いたものだが、②今では奇異なことではなくなった。幼児や子どもたちの泣き声や話し声が、うるさく感じられる現代は、些細な事柄をも咎めだてする、神経質な人たちが多くなったのである。「泣き相撲」のようなのどかな「神事」が、[注2]ナンセンスの一言で斥けられないことを願う。

先日、新幹線の中で、突然、赤ちゃんが泣きだした。すると、乗客がいっせいに、泣き声の方に振り向いた。赤ちゃんはぐずりだし、一向にやまない。若い母親が懸命にあやす。③乗客の視線が次第にけわしくなるのが感じられた。舌打ちする者もいた。母親が赤ちゃんを抱いて、客室を出ていった。なかなか戻ってこない。母子の席だけが、あいている。たぶん、赤ちゃんに用いるためだろう、ピンクの花柄のバスタオルが、きちんと折り畳まれて、席に置かれてある。これを見て何も感じない周囲の客が、不気味であった。

少子化問題は、経済と同時に国民の意識の問題である。赤ちゃんが泣くのは当たり前のこと、むしろ、喜ばしいこと、めでたいこと、と受け取れる寛容さがほしい。子どもの問題は、おとなが大人にならなくてはいけない。

姉が第一子を出産して、最初の正月、私は頼まれて手伝いに行った。義兄が会社の用事で留守になるため、二日ほど泊まり込んだ。赤ちゃんが夜泣きする。あたりは静かである。姉が気をもむのである。

隣家には、老夫婦がひっそりと住んでいた。姉のアパートの持ちぬしである。かねがね夫婦とも不眠症でつらい、とこぼしていた。正月早々、苦情を言われるのではないか、と姉はびくびくしている。男の赤ちゃんだから、泣き方が盛大である。

翌日の午後、当の家ぬしが訪ねてきた。④私たちは顔を見合わせた。「初苦情」では、なかった。苦情どころか、感謝されたのである。年の初めに、元気な赤ちゃんの泣き声を聞いて、今年は縁起がよい、と夫婦で喜びあった、というのである。赤ちゃんの泣き声は、若さを授けてくれるという。

餅を下さった。お祝いの力餅だという。姉が力餅って何のことだろう？　といぶかしんだ。

正月の餅を、老夫婦の故郷（どこか不明）ではそう称するのだろうか。別に変わったところもない、当たり前の四角の切り餅である。あとで辞書で調べたら、汁の餅ともいい、乳がよく出るとして産婦に贈る餅とあった。近畿、中国地方で、味噌汁に入れて食べさせると出ていた。

（出久根達郎「幼児の泣き声は縁起物」（『ベスト・エッセイ2012』所収））

注1　みどりご＝赤ん坊。

注2　ナンセンス＝無意味であること。ばかげていること。

問1　――線①「公園で遊ぶ子らの歓声が耳ざわりである、と訴えた人」とありますが、この人には子どもの歓声はどういうものとして感じられるのですか。文中から二字で書きぬきなさい。

問2　――線②「今では奇異なことではなくなった」について、次の問いに答えなさい。

(1)　これはなぜだと筆者は考えていますか。「～から。」に続く形で、文中から二十七字でさがし、初めと終わりの五字を書きぬきなさい。

［　　］～［　　］から。

(2)　このことから、筆者はどんなことを心配していますか。「～こと。」に続く形で、三十字以内で書きなさい。

［　　］こと。

問3　――線③「乗客の視線が……舌打ちする者もいた」とありますが、このことに対して筆者はどのように考えていますか。よいものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア　赤ちゃんが泣いたとしても、荷物を置いたままで席を離れるのは問題である。

イ　赤ちゃんが泣くのを寛容に受け入れられないのは、日本の国民性の問題である。

ウ　赤ちゃんが泣いているのを見て何も感じないのは、大人として不気味である。

エ　赤ちゃんが泣くのは当然のこととして受け入れる寛容さが、大人に必要である。

［　　］

問4　――線④「私たちは顔を見合わせた」とありますが、筆者と姉は、何のために老夫婦が訪ねてきたのだと思いましたか。「夜泣き」「苦情」ということばを使って、「～と思った。」に続く形で、二十字以内で書きなさい。

［　　］と思った。

問5　この文章の内容と合わないものを次のうちから一つ選び、記号で答えなさい。

ア　赤ちゃんの泣き声は、若さを授けるといわれている。

イ　赤ちゃんは大声で泣くのが元気な証拠として喜ばれた。

ウ　赤ちゃんの泣き声は、昔は聞く者に快い響きのものだった。

エ　豊作を祈る行事と泣き相撲とは本来関係がない。［　　］

2

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

モノたちの進化のスピードには随分ムラがある、と思う。ハイスピードで進化するモノの代表は携帯電話。

ちょっと昔のドラマをみていると、登場人物がヘチマのように大きな携帯電話を耳に当てていてびっくりする。あんなだったっけ。もうすっかり忘れているのだ。

①その様子がとても可笑しくみえるんだけど、それは我々が未来人だから。②テレビの中の人は真面目な顔で「俺を信じろ！」とヘチマに向かって叫んでいる。

近年のドラマでも、携帯を使うシーンになると、その瞬間に、あ、大体〇年くらい前だな、とわかってしまう。町並みや服装や髪型では、そこまで正確にはわからない。つまり、③他のモノに較べて携帯電話はずっと激しく変化しているわけだ。

実際の生活を送る上では、そこまで早く進化しなくても、と感じている。デザインが気に入っているからまだこの機種を使っていたい、と思うこともある。でも、結局は数年単位で買い換えさせられてしまう。自分のモノなのに自分勝手が許されない仕組みになっているのだ。

一方、なかなか進化しないモノもある。その代表は傘。私が子供の頃から基本的にはおんなじだ。変化といえば、ボタンで開く仕組みができたこととビニール素材が出たことくらいか。雨の日の大変さは軽減されていない。傘こそ進化して欲しいのに。

昭和の人が現代にやってきたら、スマートホンをみても［A］だろう。でも、傘は「傘だ」と［B］。

携帯電話や傘に限らず、世の中はこちらの希望通りには進化しないことになっているらしい。

問1　――線①「その様子」とは、どんな様子ですか。三十五字以内で書きなさい。

問2　――線②「テレビの中の人」と対照的なものを指すことばを文中から三字で書きぬきなさい。

問3　――線③「他のモノに較べて携帯電話はずっと激しく変化している」について、次の問いに答えなさい。

(1)　このことは、どんなことによくあらわれていますか。よいものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア　携帯電話の外観を見るだけで、それが使われていた大体の年代がわかること。

イ　携帯電話を使っている人の背景を見れば、瞬間的にその年代がわかること。

ウ　携帯電話のデザインが決まっているので、自分の好みのものが選べないこと。

エ　携帯電話を年単位で買い換えても、実際の生活はまったく変化しないこと。

先日、どこかのニュースの中に「塗る太陽電池」という文字を発見して、ぎょっとした。なんだか凄そう。バターのようだ。その未来っぽさに何となく不安を覚える。

そもそも私は太陽電池が何だかもよく知らないのだ。ただ、自分に縁のないところで物凄く進化しているモノがあると取り残された気持ちになる。

個人的には、太陽電池よりも先に納豆の方を何とかして欲しい、と思う。あのパックはとても不便だ。豆の表面を覆っているビニールシートみたいなのとタレ及びカラシの小袋って、もうあれ以上進化しないんでしょうか。

最初にビニールシートを剝がすと必ず豆が二粒くらいそっちにくっつくから、手でつまむことになる。その時点で指がぬるぬる。

それから小さなタレの袋を破ろうとしても、滑るに決まってる。で、焦って無理な力を加えることによって、タレが変な方向にぴゅっと飛び出す。

さらに小さいカラシ袋は懸命に絞っても出口の周辺と指にくっつくだけで、ほとんど中身を投入できない。

幾つもの難関を乗り越えて、やっと納豆が食べられる状態になった頃には、ぐったりしている。太陽電池だって塗れる時代だというのに。

（穂村弘「ムラがある」（『ベスト・エッセイ２０１２』所収））

問4　［　］A・Bにあてはまることばとしてよいものを次のうちから選び、それぞれ記号で答えなさい。

A　ア　一瞬でわかる　　イ　何だかわからない
　　ウ　よく理解できる　　エ　興味を示さない
B　ア　ひと目でわかる　　イ　まったくわからない
　　ウ　理解できない　　エ　判断しない

A（　　）　B（　　）

(2)　「ずっと激しく変化している」と同じ内容を表していることばを文中から十一字で書きぬきなさい。（　　）

問5　この文章で筆者の言いたかったことはどんなことですか。「～ということ。」に続く形で、文中から三十字で書きぬきなさい。

ということ。

3

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

やるべきことが山積みのときに、注1逃避のようにべつのことをする、というのはだれしもが心当たりがあることだろう。しかしながら、①そのとき「何をする」というのは本当に注2千差万別なのではなかろうか。

引っ越し準備中に本棚の整理にとりかかり、漫画や本を読み耽ってしまう人は多いと思う。私の場合は日記だ。昔の日記を読みかえすと止まらなくなる。べつのときに読めばさしておもしろくないばかりか、恥ずかしさえ覚えるだろうけれど、②逃避行動だからおもしろくてたまらない（ような気がする）。

仕事がたまっているとき、私ならば締め切りが立てこんでいるときだが、逃避行動としてよくあるのは買いものにいくことである。衣類や電化製品といった大きなものではなく、もっとちいさな日用雑貨だ。しかも買いものにいくのに、自分に言い訳をする。「そういえば酢が切れていた。酢を今日じゅうに、というか、忘れないように今すぐ買いにいかねばならない」、③そう言い聞かせて出向く。出向く先はいつもいく商店ではなく、輸入品を多く置くスーパーマーケットやチェーン店だ。こういう店に入って、異国の調味料やお菓子のパッケージを手にとってはうっとりと眺め、ぜったいに使い切らないであろうめずらしいスパイスなどを気づけば買いこんでいる。そうしてなんとなく気分よく帰ってきて、気づくのだ。今買わねばならない酢を買い忘れたことに。

猫を飼うようになってから、④猫逃避というあらたな分野があらわれた。猫の好きなおもちゃをもって延々と猫と遊ぶ。あるいはベッドに横たわり猫が隣にきて寝るのを待つ。猫の写真をひたすら撮りまくる。これが猫逃避。しなければならない家事関係がたまってい

問1　――線①「そのとき」の指している内容を、「～とき。」に続く形で、文中から二十五字以上三十字以内でさがし、初めと終わりの五字を書きぬきなさい。

とき。

～

問2　――線②「逃避行動だからおもしろくてたまらない」とありますが、「おもしろくてたまらない」と感じるのはなぜだと考えられますか。よいものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア　そのときはふだんと比べてゆったりとした気持ちでものごとに向き合えるから。

イ　そのときだけでも余裕のない状況や気持ちから遠ざかっていられるから。

ウ　そういうときにかぎっておもしろいものを見分ける力が発揮されるから。

エ　そういうときこそ楽しもうという前向きな気持ちがわいてくるから。

（　　）

問3　――線③「そう言い聞かせて出向く」について、次の問いに答えなさい。

(1)　筆者がこういう行動をするのは、どんな状況のときですか。二十字以内で書きなさい。

るときに、私がよく陥る逃避である。

あらためて考えてみると、私の逃避はみな非生産的である。たとえば逃避行動として鍋を磨く人がいる。掃除をする人がいる。本棚の整理をはじめる人がいる。縫い物をする人がいる。運動をする人がいる。凝った料理を作る人がいる。エステやマッサージにいく人がいる。

逃避のはずなのに、それらはみな、生産的だ。生活の何かしらの役にたっている。エステやマッサージですら、きれいになったり肩こりが治ったりというプラス点がある。私もそういう逃避がしたい。せいぜい猫の遊び心が満たされるというプラス点があるくらいか。仕事をしたくなくて家事をするとか、家事をしたくなくて仕事をするとかになれば、もっと合理的に快適に暮らせるのではないか。

いや、しかしそんな合理的な人間だったら、そもそも逃避などしないのかもしれない。

完璧に逃避できると、何かから逃避していることをすっかり忘れて、なぜそこにいるのか、なぜそれをしているのかわからないながら、何かたのしいという軽い注3トリップ感が味わえる。これがせめてものプラス点だろうか。……いや、そういうことではないな。

（角田光代「非生産的逃避」（『ベスト・エッセイ２０１２』所収））

注1　逃避＝困難に直面したとき、逃げたり意識しないようにしたりして、それを避けること。

注2　千差万別＝さまざまな違いがあること。

注3　トリップ＝ここでは、陶酔する（うっとりする）こと。

問4　――線④「猫逃避というあらたな分野」について、次の問いに答えなさい。

(1)　筆者がこの行動をするのはどんなときですか。それがわかる一文を文中からさがし、初めの五字を書きぬきなさい。

(2)　筆者は、自分のいろいろな逃避行動をどう考えていますか。文中から四字で書きぬきなさい。

(2)「言い聞かせて」とありますが、このときの筆者の心情としてよいものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア　納得できない。　イ　しかたがない。

ウ　気が気でない。　エ　うしろめたい。

（　　）

問5　この文章の内容と合うものを次のうちから一つ選び、記号で答えなさい。

ア　合理的に暮らせるようになるためには、仕事と家事を両立させることが大切である。

イ　逃避のはずなのに、それらの行動すべては生産的なものであるといえる。

ウ　逃避行動のはずなのに、それが生活の何かしらの役にたっている合理的な人もいる。

エ　何かから逃避していることをすっかり忘れられるような逃避が理想的である。

（　　）

●敬語

例題　次の各文の□にあてはまる、「言う」という意味のことばをあとから選び、記号で答えなさい。

(1) 話題の人をうやまう言い方で。
お客様がわたしに□。（　　）

(2) 話す人がへりくだる言い方で。
わたしがお客様に□。（　　）

(3) ていねいな言い方で。
わたしが友だちに□。（　　）

ア 言います　イ 申し上げる　ウ おっしゃる

解き方

(1)「お客様」など、相手を高めることで、目上の人や高めるべき立場の人をうやまう気持ちを表すことばを**尊敬語**といいます。
例 食べる→めし上がる　話す→お話しになる・話される

(2) うやまうべき人に対して、自分や自分側の人を低めてへりくだる気持ちを表すことばを**けんじょう語**といいます。
例 聞く→うかがう　やる→差し上げる　話す→お話しする

(3) ていねいな言い方で聞き手や読み手をうやまう気持ちを表すことばを**ていねい語**といいます。
例 話す→話します　学校だ→学校です　水→お水

尊敬語・けんじょう語・ていねい語をまとめて**敬語**といいます。

答え (1) ウ　(2) イ　(3) ア

1 次の——線部を（　）内の言い方の敬語に改めた場合に、ふさわしいことばをあとから選び、記号で答えなさい。

(1) お客様が帰る。（話題の人をうやまう）（　　）

(2) お客様がおみやげをくれる。（話題の人をうやまう）（　　）

(3) わたしはお客様からおみやげをもらう。（自分がへりくだる）（　　）

(4) ぼくは田中君のお父さんの絵を見る。（自分がへりくだる）（　　）

(5) 兄は五時までに家に帰る。（ていねいに言う）（　　）

ア 帰ります　イ お帰りになる　ウ はいけんする
エ くださる　オ いただく

2 次の——線部を「お（ご）～になる」という形の尊敬語に直して書きなさい。

例 歩く → お歩きになる

(1) 大臣が車を待つ。（　　）

(2) 先生がバスを利用する。（　　）

3 次の——線部を「れる・られる」を使った尊敬語に直して書きなさい。

例 歩く → 歩かれる

(1) 社長が言う通りです。（　　）

(2) 先生が本を読む。（　　）

4 次の——線部を決まった言い方の尊敬語に直して書きなさい。

例 言う → おっしゃる

(1) 先生がわたしの家に来る。（　　）

(2) 校長先生が運動会を見る。（　　）

5 次の——線部を「お（ご）～する」という形のけんじょう語に直して書きなさい。

例 手伝う → お手伝いする

(1) 博士のかばんを持つ。（　　）

(2) 先生に相談する。（　　）

6 次の——線部を決まった言い方のけんじょう語に直して書きなさい。

例 言う → 申し上げる

(1) 社長の家に行く。（　　）

(2) 山田さんの家でジュースを飲む。（　　）

7 次の——線部のことばをていねい語に直して答えなさい。

(1) これはぼくの犬だ。（　　）

(2) 妹といっしょに遊ぶ。（　　）

8 次の文の敬語のまちがいを直して、文全体を書きかえなさい。

(1) 先生、お母さんからの伝言です。
（　　）

(2) この仕事はわたしがおやりになります。
（　　）

漢字の学習18

——線部の漢字は読みをひらがなで書き、かたかなは漢字に直しなさい。

(1) 不利なじょうきょうだ。（　　）

(2) 話を続ける。（　　）

(3) 徒歩で駅まで行く。（　　）

(4) 赤が好きだ。（　　）

(5) 香水をつける。（　　）

(6) 佐賀県の昔話。（　　）

(7) 木のえだを縄でしばる。（　　）

(8) 類いまれな才能。（　　）

(9) 沖まで泳ぐ。（　　）

(10) 健康そうな子ども。（　　）

(11) 水にシオをまぜる。（　　）

(12) ナラクの底からはい上がる。（　　）

(13) ドリョクが実る。（　　）

(14) 成績がヨい。（　　）

(15) 目をサます。（　　）

(16) セキショのあとを見る。（　　）

(17) けん玉のわざをキソう。（　　）

(18) 明るいデントウをつける。（　　）

(19) サイショがかんじんだ。（　　）

(20) 千人ミマンの参加者。（　　）